

## 新需要層を掘り起こす新事業戦略

株式会社ダイヤモンド社 雑誌局局长(ダイヤモンド ザイ発行人) 松室哲生氏

マネー誌に取り組むに当たり、当初は、40代以上の層、もっと言えば50代以上の層をターゲットにしたものを考えていた。十分な調査の結果であり、中間答申でも承認されていた。調査回答者の方には、失礼も省みずに、根掘り、葉掘り、マネーに関するプライベートなことを踏み込んでお聞きした。20代、30代、40代、50代、と、世代別に分けて調査を実施した。

40代は家計が一番苦しい時期であるから難しいが、50代になると子供も独立し、お金にも余裕が出てくる。この層に対してはいけるはずだと、当初は予想していた。ところがどうもそれも難しい、というのが食い下がったインタビューで肌で感じた結論であった。

高齢化がさらに進む。極近では、例えば退職後、マネー・プランをどうするかという問題を抱えている人たちが50代の層にはいっぱいいる。だからその人たちのために雑誌をつくろう、という初期のコンセプトを、我々自身のインタビューが覆すことになった。

50代の方々のマネーとの付き合い方をお聞きすると、約3分の1は、マネーの運用に旺盛な興味を持って運用したいと思っている。ところが、あとの3分の2は「男子たるもの金のことを話すのも汚らしい」「私は金のことに、一切、興味はありません」「年金があれば十分である」という調子である。年齢が上がるにつれてその傾向が顕著であった。どうもお金に対して潔癖な方が多いのである。

それでも3分の1は興味もあり、それは立派なマーケットではないかと思われるかもしれない。が、この方たちは既に個人資産家として証券会社の営業マンとも付き合っており、あの株はどうした、この株はどうしたと、耳学問を含めて勉強している。その分野は、日経マネー、マネージャパンを始めとして先行している情報誌がたくさんある。わざわざ我々が超後発で出ていって同じことをする必要はなからう。

一方で、その調査で浮かび上がってきたのは、20代、30代の方々である。彼らは、金はないが、興味はある。リスクをとるのも、いいじゃないか、という姿勢を持っている。天秤にかけたみたいな言い方だが、こっちの方がいいぞ、となった。

そこでもう一度、あらためて、色々な状況を洗いなおしてみた。今年38歳以下の世代は、年金支給が65歳からになる。今、60歳の方が、65歳までに貰える年金総額は、約1100万円強である。

38歳以下の世代は、今の60歳が貰っている1100万円強をもらえないのである。その分をどうするのだ？自分でうまくお金を運用して確保していくしかないではないか。

限定的ではあるが、日本版401Kも今秋からでてくる。株式の手数料の自由化があった。やや前にさかのぼると、改正外為法が施行されている。自由化の動きが連続してきている。今の若い人たちはそういうものに非常に敏感になっている。

ネット取引に対しても感度が高い。インターネットをやってみたが、あっち見、こっち見るだけでは面白くない。ワインや、本も買い飽きた。ネット株取引というのは面白そうだ。ミニ株ならば5万円くらいでできる。5万円くらいならば、どうってことないだろう、と、お小

遣い程度のネット取引で遊んでいる人たちが結構多かった。

急速、それまで考えていたターゲットを全部捨てた。発行を発表する2ヶ月くらい前のことであった。20代、30代のためのマネー誌に切り換えたのである。意欲はあるが、全くマネーのことを知らない世代である。ビギナーのための雑誌ではだめ。さらに踏み込んで、超ビギナーのためでないとだめだ、と意を決した。

この意思決定には、実は先行モデルがあった。パソコン雑誌である。パソコン雑誌では、僅か6年くらい前は、月間アスキー、日経パソコン、それにマッキントッシュの専門誌でも、中級以上のユーザーをターゲットにしたものばかりであった。

そのような状況下で、日経クリック、パソなどのビギナー向け雑誌が出現した。どれくらいビギナー向けかというと、まずコンセントを電源に差込みましょう、から始まるのである。コンセントに差込まずに、動かないぞ、と怒って電話をかけてくる素人の事例はいくらでもある。それくらいまで目線を低くして、部数を伸ばすことに成功したのである。

パソコン業界の変遷を辿り、個人マネーの今後の展望を重ね合わせると、それが雑誌マーケットでどういう風に発展していくか、を分析してみた。個人マネー雑誌は、今、パソコン雑誌がビギナー市場を開拓した段階に近い状況にある。だから、マネー誌の分野で、さあコンセントを電源に差込みましょう、から始まる雑誌にしようとコンセプトを設定した。これはいけると確信した。こうして、Z Aiの基本コンセプト、「超ビギナー向けのマネー誌」が固まったのである。